# 開發高級日語文字詞彙數位學習教材

篠﨑大司・松下達彦・川村よし子

## 中国語の要旨

本研究的目的是為了讓學習者能夠習得高級日語文字和詞彙,建構在 Moodle 學習管理系統上搭載數位學習教材的學習環境。本文將報告該學習環境的開發現狀。該數位學習教材是為了讓學習者的文字詞彙能力提高到能夠考上日本語能力測驗 N1 (以下簡稱 N1) 的程度而設計,出題方式也依據 N1 準則。

如果要把數位學習教材作為上課的主要內容,必須要有能夠對從選課到達成度進行 集中管理的學習管理系統。但是在日語教學的領域中,這樣的課程軟體極少。在這 種現狀下,在世界上廣泛提供該數位教材,不僅能解決非日語圈日語教師和教材不足 等問題,而且相信能夠提供更有效率和更有成效的學習支援環境。

キーワード: 語彙量テスト、 目標語彙選定基準、 e ラーニング、 上級日本語文字・語彙、日本語能力試験 N1

# 上級日本語文字・語彙 e ラーニング教材の開発

#### 篠﨑大司・松下達彦・川村よし子

#### 0. はじめに

本研究の目的は、Moodle と呼ばれる学習管理システム上に、上級レベルの日本語文字・語彙力習得のためのeラーニング教材を搭載した学習環境を構築することにある。ここではその開発状況について報告する。このeラーニング教材は、学習者の文字・語彙能力を、日本語能力試験 N1 (以下 N1) 合格レベルに向上させることを目指して設計したものであり、出題形式も N1 に準拠している。

現在、日本語学習の目的は、日本文化を学ぶためだけでなく、留学、就業、定住等、多様化するとともに、日本政府も外国人高度人材の育成とその獲得を謳い、高い日本語能力の育成を重要視している。また、日本国内のみならず、海外において日本語を学ぶ学習者も多く、インターネットを活用した日本語学習環境の整備が求められている。本教材は、こうした多様な期待に応え、日本語の文字・語彙能力の育成を図るものである。本研究によって開発された教材を、国内外の日本語学習者や日本語教育機関に提供することによって、質量ともに十分な上級文字・語彙学習の促進が可能になる。

インターネットを活用した日本語学習環境の先駆的役割を果たしているものとしては、読解学習支援システム『リーディング・チュウ太』(川村・北村 2001 川村 2009)がある。1999年からインターネット上で無償公開(http://language.tiu.ac.jp/)され、初級から上級までの読解教材が提供されているだけでなく、学習者が読みたい文章をコピー&ペーストすることで、辞書引きツールや単語や漢字のレベル判定が自動で行えるツールも備えている。その後、さまざまな形の教材がインターネット上に提供されるようになったが、授業のメインコンテンツとして履修管理から到達度評価までを一括管理できる学習管理システムを有したコースウェアの開発は、まだ極めて少ないのが現状である。そうした中、Moodle と呼ばれるコースマネジメントシステム(Course Management System. CMS.)を使ったeラーニング教材の開発とそれを活用した授業実践として『上級日本語読解』(篠崎 2009, 2010a)、『同聴解』(篠崎 2010b, 2012)、『同文法』(2011a, 2011b, 2011c, 2013a, 2013b, 2013c) がある。これは、日本語能力試験 N1 に相当する日本語力の養成を目指し

たものである。こうした e ラーニング教材を集合学習に取り入れることによって、 学習者は自分のペースで繰り返し習得するまで学習することができ、また、教師は 学習者の学習進捗状況をリアルタイムに把握し、それを個別指導につなげることが できる。今回開発している e ラーニング教材『上級日本語文字・語彙』もこれまで の篠崎の取り組みを踏襲するものである。

今回開発するeラーニング教材を国内外に広く提供することによって、特に海外における慢性的な教員不足・教材不足を解消し、効率的で効果的な学習支援環境の提供が可能になるものと考えられる。

## 1. 語彙項目の選定基準と分類

本システムの主な対象者は日本語能力試験の N1 の合格を目指している日本語学習者である。すなわち、N2 には合格しているものの、まだ N1 には合格していない学習者を対象にしている。そのため、本システムの開発に当たり、まず、この条件に相当する日本語学習者に、松下(2012)の「日本語を読むための語彙量テスト」(VSTRJ、15K 版)を受験してもらい、不正解項目の分布から項目選定を考えることとした。

## 1.1 「日本語を読むための語彙量テスト」(15K版)の概要

「日本語を読むための語彙量テスト」の目的、対象レベル、構成、形式は以下の通りである。

- (1) 目的: 読むための語彙知識 (書き言葉の受容的な語彙知識) の量を最大 15000 語のレベルまで測定すること。レベル別の語彙量を測定すること。また、将来的に適応型テストを作成する場合のため、適応型テストを評価するときの真値を得ること。
- (2) 対象:基本的に日本語を第二言語とする学習者、入門から超上級まで全レベル。
- (3) 構成:国立国語研究所(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』2009年モニター版に基づいて、使用頻度と分散度(使用範囲)を指標として作成された語彙リスト(松下2010、2011)のうち、100語につき1語の割合で1000語レベルごとにサンプリングされた問題、合計150問。得点は1000語レベル(各10問)ごとに集計される。品詞と語種(和語・漢語・外来語・混種語)の割合も、1000語レベルごとおよび全体として母集団の割合を反映するように作成されている。

- (4) 形式:目標語の意味を説明したものを四つの選択肢から選ぶ形式。問題文は不 自然にならない程度の undefined sentence (目標語の意味が特定されない文) と する。問題文および選択肢の記述はわかりやすいものとし、目標語よりも低頻度の 語は用いない。英語の語彙サイズテスト (Nation & Beglar, 2007) に準じている。 ただし、目標語のみ、最も標準的な表記を用いてふりがなをつけず、それ以外の漢 字にはふりがなをつける。選択肢は50音順に配置する。
- (5) 受験者:日本の三つの大学(国立大学1、私立大学2)に所属する計56名。 出身国は18か国にわたる。日本語学習歴は9か月から10年までにわたるが、不明 者を除いた42名の平均が3年7か月(標準偏差1年10か月)である。受験者のう ち1級合格者が15名、2級合格者(1級未受験もしくは不合格)が20名、2級不 合格者が9名、不明または未受験が12名である。1級合格者の学習歴は、学習歴の 記入のなかった 3 名を除く 12 名の平均が 2 年 11 か月、標準偏差が 1 年 8 か月だっ た。この12名は5名が中国、6名が韓国の出身である(あと1名は出身の記入な し)。学習期間については、8年という例外的に長い受験者1名を除くと、平均2 年 5 か月で標準偏差は 9 か月である。これは本研究のテスト受験時での学習期間で あって N1 合格までの期間ではないということを考慮に入れると、少なくとも韓 国・中国出身の日本国内の大学生の場合、3年以内で合格している学習者が多いと いうことは言えるであろう。
- (6) 実施: 2014年の7月に各所属大学で実施された。

(「日本語を読むための語彙量テスト」(15K 版)問題サンプル) \*実際の問題とは異なる。

[1000語レベル]

[6000語レベル]

**ちがう**: それは**ちがいます**。 礼儀: あの人は礼儀を知らない。

- 1) 大きくありません 1) おおよその内容をまとめたもの
- 2) 同じではありません 行動様式
- 2) 人間関係を守るための

3) 聞きません

3) ものを大切に思う気持ち

4) できません

4) 理論とは異なる現場の仕事

#### 1.2 テスト結果

全体の結果は表 1 の通りである。標準偏差も考慮に入れると、おおむね 120 点前後が N1 合格の目安だといえよう。

表1 日本語能力試験合格レベル別、「日本語を読むための語彙量テスト」(松下2012)の結果

	受験者数	平均	標準偏差
N1╱1級 合格者	15	129.7	8.5
N2合格者(N1不合格/未受験)	20	109.2	19.0
N2不合格者	9	91.2	24.3
未受験•不明	12	122.0	13.9
<del></del> 全体	56	114.5	21.3

以下の表 2 と表 3 は、N1(または 1 級)合格者と N2 合格者(N1 不合格/未受験)の得点パタンを示したものである。(後者については 1 級に合格できる可能性のある受験者も含んでいるため、総得点 120 点以下の者のみを対象とした。)

表2 「日本語を読むための語彙量テスト」(松下 2012) における、日本語能力試験 N1 または 1 級合格者の得点パタン

							Ī	吾彙レ	ベル(>	<b>k</b> )						
	総得点	1K	2K	3K	4K	5K	6K	7K	8K	9K	10K	11K	12K	13K	14K	15K
受験者1	145	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9
受験者2	139	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	10	8	10	7
受験者3	138	10	10	10	10	10	10	9	8	9	10	10	7	8	8	9
受験者4	138	10	10	9	9	10	10	10	9	9	10	9	8	7	9	9
受験者5	134	10	10	10	10	10	10	9	10	8	8	9	9	5	8	8
受験者6	133	10	9	10	10	10	10	8	9	8	10	8	8	5	9	9
受験者7	132	9	10	10	10	10	10	10	9	8	10	7	5	6	10	8
受験者8	129	10	10	10	10	10	8	10	9	9	8	4	7	8	9	7
受験者9	128	10	10	10	9	9	9	10	9	8	9	9	6	5	7	8
受験者10	128	10	9	9	9	10	10	10	7	10	8	7	8	6	7	8
受験者11	127	10	10	9	7	9	10	10	9	8	10	9	6	6	8	6
受験者12	124	10	10	10	8	10	9	9	7	9	9	8	6	8	5	6
受験者13	121	9	10	9	10	9	10	7	7	9	10	7	7	5	6	6
受験者14	115	10	9	9	8	9	10	10	9	6	4	6	6	7	7	5
受験者15	114	9	10	10	9	10	10	8	9	7	9	4	3	5	4	7
平均	129.7	9.8	9.8	9.6	9.3	9.7	9.7	9.3	8.7	8.5	8.9	7.7	7.0	6.5	7.7	7.5

<sup>\*</sup>Kは1000語を表し、例えば7Kは松下(2010)の語彙ランキング6001~7000位の語を指す。

表3 「日本語を読むための語彙量テスト」(松下 2012) における、日本語能力試験 N2 合格者 (N1 不合格/未受験) の得点パタン

							-	吾彙レ	<b>∾</b> II (	<b>4</b> )						
							ā	音栗レ	へル(	* )						
	総得点	1K	2K	3K	4K	5K	6K	7K	8K	9K	10K	11K	12K	13K	14K	15K
受験者16	120	10	10	8	10	10	10	8	7	6	8	7	9	6	6	5
受験者17	120	10	10	8	9	9	9	10	7	8	8	7	6	6	7	6
受験者18	119	10	9	9	10	10	9	7	8	6	10	5	8	5	7	6
受験者19	117	9	10	10	9	9	10	10	8	7	7	7	7	4	6	4
受験者20	115	10	9	9	10	7	10	8	7	6	7	7	4	6	7	8
受験者21	114	9	8	9	7	9	9	8	7	5	7	7	7	7	8	7
受験者22	113	10	9	10	10	8	8	9	7	8	6	5	6	7	5	5
受験者23	97	10	10	8	8	8	8	9	2	6	7	4	4	3	5	5
受験者24	93	10	10	6	5	7	6	8	6	6	6	5	6	6	3	3
受験者25	87	9	8	7	8	7	7	8	5	4	4	4	5	6	3	2
受験者26	84	10	10	9	7	5	8	7	5	3	7	2	3	3	4	1
受験者27	80	10	8	5	8	7	6	4	2	4	4	6	5	5	2	4
受験者28	78	10	8	8	7	6	8	6	5	6	3	3	0	2	4	2
受験者29	77	8	8	0	1	5	8	4	7	4	6	5	6	4	5	6
平均	101.0	9.6	9.1	7.6	7.8	7.6	8.3	7.6	5.9	5.6	6.4	5.3	5.4	5.0	5.1	4.6

<sup>\*</sup>Kは1000語を表し、例えば7Kは松下(2010)の語彙ランキング6001~7000位の語を指す。

<sup>\*</sup>テスト問題は1000語に1語の割合でサンプリングされており、各レベル10点満点で、合計150点満点である。

<sup>\*7</sup>K以下で9点未満の得点を太字・斜字にしている。

<sup>\*</sup>テスト問題は1000語に1語の割合でサンプリングされており、各レベル10点満点で、合計150点満点である。

<sup>\*7</sup>K以下で9点未満の得点を太字・斜字にしている。

<sup>\*1</sup>級に合格できる可能性のあるものも含んでいるため、総得点120点以下の者のみを対象とした。

# 1.3 テスト結果の考察

1級合格者は1級レベルの語彙をたくさん知っているというより、むしろ、2級レベル以下の語彙(より具体的には上位7000語まで)に失点が少ないという特徴がある。1級に合格していない受験者の場合、7000語レベルまでの得点率は9割以下で、抜けが多い。1級合格者の場合、総得点で150点満点中120点以上の学生が多いが、これらの学生は7000語を超えるレベルでは得点傾向にばらつきがある一方、7000語レベル以下では安定して9割以上の得点を上げているのである。

当然のことながら、頻度上位の語ほど文章中によく出現する。すなわちテキストカバー率が高いので、より高頻度の語彙を学習していくほうが、既知語のテキストカバー率を上げるという点においても効率的であり、高頻度語をより確実に習得していることと、1級合格とが大きく関連していると考えることができる。以上のことから、学習語彙の選定は、上位7000語レベルまでの語を中心に行うことにした。

# 1.4 e-learningの目標語彙の選定基準

上位 7000 語レベルまでの語彙には、旧日本語能力試験の1級語彙、級外語彙が 多く含まれている。それらは、現行の試験基準で N1、N2 として位置づけられてい る可能性が高いと予測できる(現行の試験では語彙リストは公開されていない)。一 方、上級語彙の一つの特徴は、テキストの領域によって異なる語彙が用いられるこ とである。そこで、語彙の選定に当たっては、学術テキストに用いられる語彙と、 文芸テキストに現れる語彙を中心に採録することとした。より具体的には、上位 5000~7000 語レベルの学術共通語彙(松下 2011)、文芸語彙(松下 2012)を中心 におき、その次に上位 2000~5000 語レベルの学術共通語彙、文芸語彙を中心に採 録した。結果として、通常の語種の割合と比べて、漢語が多めで和語と外来語が少 なめに採録されている。ただし、易しすぎると判断されるもの(特に旧日本語能力 試験 2 級以下の語彙の一部)、出題されにくいと判断されるもの(特に旧日本語能 力試験級外語彙、分散度(dispersion)が低く使用域が限定されすぎると考えられ る語など)は手作業で除外した。また、学術共通語彙、文芸語彙以外の語彙につい ても、出題される可能性が相対的に高く、かつ、N1 受験者にとって易しすぎない と判断されるものを、適宜加えた。さらにフィルターをかけて、旧日本語能力試験 の語彙レベル、領域特徴性(学術、文芸などのジャンル的特徴)、分散度のほか、品 詞、語種などについても組み合わせを変えながらフィルターをかけ、相対的に出題 されやすく、かつ易しすぎないレベルの語を選定した。また、作題過程で、品詞や 語種のバランスをとるために必要とされた語彙を追加で補充した。

# 1.5 e-learningの目標語彙の選定結果

以上の結果、試験および練習問題用に選定された語彙を、レベル別、語種別、品 詞別に分類し、語例を上げたのが以下の表である(表4~表6)。

表4 本研究の e-learning の学習目標語彙のレベル分布・語例

		旧日本語	吾能力試.	験レベル	別語数	旧日本語能力試験レベル別語例					
語彙 レベル (*)	合計	級外	1級	2級	3級	級外	1級	2級	3級		
2K	30	0	12	17	1		系	改めて	ちっとも		
3K	439	36	204	199	0	そもそも	採用	医療			
4K	527	105	250	172	0	前述	交わす	大した			
5K	501	119	264	118	0	ステップ	大幅	衛生			
6K	390	126	211	53	0	適正	視覚	にらむ			
7K	383	134	190	59	0	ストレート	態勢	通り過ぎる			
8K-10K	109	52	37	20	0	当分	ユニーク	まぶしい			
11K-	76	39	27	10	0	重苦しい	がっちり	強気			
合計	2455	611	1195	648	1						

<sup>\*</sup>Kは1000語を表し、例えば7Kは松下(2010)の語彙ランキング6001~7000位の語を指す。

以下の表 5 では、和語、漢語、外来語という分類に加えて一語に複数の語種が混ざっているものは「混種語」として分類した。

表5 本研究の e-learning の学習目標語彙の語種別分布・語例

			語種別	削語数		語種別語例			
語彙 レベル (*)	合計	和語	漢語	外来語	混種語 不明	和語	漢語	外来語	混種語
2K	30	10	20	0	0	いかに	各		
3K	439	116	309	4	10	優れる	概念	プロ	単なる
4K	527	171	321	28	7	舌	出産	トン	役立つ
5K	501	153	302	29	17	率いる	冒頭	コーナー	察する
6K	390	142	213	22	13	戸惑う	担保	ロープ	合図
7K	383	138	211	28	6	ゆるむ	周期	メジャー	兄貴
8K-10K	109	75	5	20	9	ひとまず	延々	ホット	分厚い
11K-	76	56	0	10	10	ぎっしり		パーソナル	気まずい
——— 合計	2455	861	1381	141	72				

<sup>\*</sup>Kは1000語を表し、例えば7Kは松下(2010)の語彙ランキング6001~7000位の語を指す。

表6 本研究の e-learning の学習目標語彙の品詞別分布・語例

			品	<b>詞別語</b>	数	品詞別語例					
<b>語彙</b> レベル (*)	合計	名詞 (動名 詞·形容 名詞除 ()	<b>動名</b> 詞 (サ変動 詞)	<b>形容</b> 名詞 (形容動 詞・ナ形容詞)	<b>動詞</b> (サ変除 く)	<b>その</b> (形容副辞 (形詞、ど)	<b>名詞</b> (動名詞·形 容名詞除〈)	<b>動名詞</b> (サ変動詞)	形容名詞 (形容動詞・ ナ形容詞)	<b>動詞</b> (サ変除く)	<b>その他</b> (形容詞、副 詞、接辞な ど)
2K	30	0	0	0	0	30					非
3K	439	171	129	26	59	54	背景	登録	確実	越える	超
4K	527	188	150	45	95	49	実質	接触	重大	こだわる	いざ
5K	501	187	141	50	91	32	成分	開拓	あざやか	焦る	あっさり
6K	390	143	97	34	86	30	あこがれ	修復	大げさ	差し込む	棟
7K	383	154	94	33	66	36	一筋	阻止	粗末	押し寄せる	ハッと
8K-10K	109	1	0	41	0	67	テンポ		手軽		ろくに
11K-	76	0	0	26	0	50			大がかり		だるい
合計	2455	844	611	255	397	348					

<sup>\*</sup>Kは1000語を表し、例えば7Kは松下(2010)の語彙ランキング6001~7000位の語を指す。

今後は、システムの効果測定の一環として、選定した語彙の妥当性も検証してい く必要があろう。

# 2. 学習コンテンツの構築

#### 2-1. コース概要

現在、1で選定された約2455 語をもとに、日本語能力試験 N2 レベル程度の学習者を対象とした同 N1 レベルの文字・語彙力養成のための学習コンテンツを Moodle 上に構築している。出題形式は現行の日本語能力試験 N1「文字・語彙」の形式に従い、すべて四肢選択問題である。

コースの構成は、学習コンテンツ全 13 回に中間・期末試験を加えた全 15 回である。なお、学習コンテンツは Moodle の「レッスン」モジュールを、定期試験は「小テスト」モジュールを採用した。

学習コンテンツに「レッスン」モジュールを採用した最大の理由は、1問ずつ順番に解き、かつ前問の解答結果に応じて次の問題に進めるか否かをあらかじめ設定できるシナリオ型教材を構築できる点にある。これにより、前問に正解しないと次の問題に進めないように設定することで知識の定着を徹底させたり、あるいは、前の問題群の評点が一定以上にならないと次の問題群に進めないように設定することで、全学習者の到達度を一定に保たせたりすることができる。

本コースの1回あたりの構成は、漢字で書かれた語の読み方を問う「漢字読み」、 文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う「文脈規定」、出題される語 や表現と意味的に近い語や表現を問う「言い換え類義」、出題語が文の中でどのよう に使われるのかを問う「用法」の4形式からなり、問題数は各項目 20 問である。 ただし、第1回はオリエンテーションも兼ねているため、各項目 10 問となっている(図1)。学習コンテンツの全問題数は 1000 問である。



図1 コース画面(一部)

さらに、本コースは、例えば、「漢字読み」の1問目に正解しないと2問目に進めない、さらには「漢字読み」を全問正解しないと次の「文脈規定」に進めないといったように、前のタスクに正解しないと次のタスクに進めない単線型のコース設計となっており、これによって完全習得を目指している。

なお、本コースには学習コンテンツと同問題が掲載された紙媒体の付属テキストが用意されており、学習者はeラーニングと付属テキストの併用で学習を進める。

#### 2-2. 学習の進め方

学習者は、まず「学習の進め方」を読み、学習の進め方や評価方法等について理解するとともに、記述内容について「同意した」という意思表示を画面上で示すことによって、次に続く学習コンテンツに進むことができる(図2)。文章はすべて日本語である。筆者(篠崎)の授業では、学習者に文章を黙読させ同意するか否かの意思表示をさせている。これにより、授業開始時のオリエンテーションの効率的な

進行と授業内容の周知徹底を可能にしている。



図2 「学習の進め方」同意確認画面(一部)

学習は、第1回から順次「漢字読み」、「文脈規定」、「言い換え類義」、「用法」の順に解いていく(図3)。なお、「レッスン」モジュールで構築した問題は日本語力を評価することが目的ではなく、問題の回答を通じて自分のペースで理解を深めながら語彙力を高めることが目的であるため、制限時間は特に設けていない。

第1回 文脈規定	
( ) に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。	
アメーバやソウリムシは、代表的な( )細胞生物だ。	
○ 微	
О Ф	
○単	
○ 純	
送信	

図3 「文脈規定」問題画面

不正解の選択肢を選ぶと図4のような画面が表示される。学習者は、選択肢の語について解説したフィードバックを読んで理解を深めつつ、必要に応じて付属テキストに情報を記録する。その後、図4にある「続ける」を押すと選択肢がシャッフルされた形で同じ問題が再度表示され、学習者は正解するまで解答を続ける。ただし、20回を過ぎると自動的に次の問題に移動する。

第1回 文脈規定
( ) に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。
アメーバやゾウリムシは、代表的な( ) 細胞生物だ。
あなたの答え:微
不正解です。 ♥️ 微 (び): わずかの。 例) 微炭酸 (びたんさん)  続ける

図4 「文脈規定」不正解画面

正解すると図5のような画面が表示され、「続ける」を押すと次の問題が表示され る。

# 第1回 文脈規定

( )に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

アメーバやゾウリムシは、代表的な( )細胞生物だ。

あなたの答え:

堇

正解です。 🐸



単(たん):ただ1つの

単細胞生物(たんさいぼうせいぶつ):1つの細胞でできている生物。

続ける

図5 「文脈規定」正解画面

「漢字読み」、「言い換え類義」、「用法」も同様の手順で学習を進めていき、最終 問題である「用法」を全問正解すると1回分の学習が完了する。

#### 2-3. 学習履歴の把握

教師は図6aおよび図6bに示す「レポート」画面を見ることによって学習者一 人一人の学習履歴と学習状況をリアルタイムで把握することができる。これにより、 e ラーニングを活用した一斉指導と、学習者個々の客観的な履修データに基づいた 個別指導が可能となる。さらに、こうした学習履歴閲覧機能を活用すれば、例えば 最終問題の解答完了に期限を設け、それに出席や評価を紐付けし、その結果を折に 触れ学習者に提示することによって、学習スケジュールに沿った学習の徹底を図る こともできる。



図6a 「レポート」画面(1)

第1回 漢字読み 🗈		
プレビュー 編集 レポート 作文問題	DPP定	
概要 書羊細統計		
すべてのコース評定を表示する		
受験: 1		
名称:	学習者A	
経過時間:	10 分 56 秒	
完了:	2015年 09月 17日(村曜日) 17:18	
評点:	10/10	
評点:	40%	
多肢選択問題:第1回 漢字読み		クラス統計
問題: の言葉の読み方として最もよいものを、1・	2・3・4から一つ選びなさい。	
言っていることが <u>漠然</u> としていて、よくわからない。		
答划選択肢		
ぱくぜん		100% チェックされました。
ぼうぜん		未チェック
はくなん		未チェック
ぼうねん		未チェック
レスポンス:		

図6b 「レポート」画面(2)

#### 2-4. 中間·期末試験

本教材では、中間・期末試験を Moodle の「小テスト」モジュールで構築した。「小テスト」モジュールは、「レッスン」モジュールと同様、様々な形式の問題を作成することができる。しかし、「小テスト」モジュールは1 問ずつ順番に解きながら進んでいくシナリオ型の「レッスン」モジュールとは以下の点で異なっており、学習者と教師双方にとって定期テストに向いた仕様ということができる。

- 1. 設定した問題数を受験者ごとに問題バンクからランダムに出題することができるため、試験中の不正防止に役立つ。
- 2. 問題番号が画面上に一覧表示されるため、受験者にとっては各設問が解答済みか未解答かが一目でわかるばかりか、問題番号をクリックすることでいつでも簡単に任意の問題にアクセスすることができる。
- 3. 受験者は試験終了直後に、試験結果を画面上で知ることができる。
- 4. 教師は、受験者個々の受験結果を画面上で一覧でき、かつその結果をエクセルでダウンロードすることができる。また、自動で生成された得点分布図も閲覧することができる。

中間・期末試験の概要は、以下の通りである。

表7 中間・期末試験コンテンツの概要

	中間試験	期末試験			
→ <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b> <b>→</b>	第1回~第7回の各問	第8回~第13回の各問			
試験範囲	題からほぼ均等に出題。	題からほぼ均等に出題。			
問題数	100 問	100 問			
制限時間	50分	50分			

また、実際の受験生向け試験画面は図7の通りである。1画面あたり5問ずつ表示され、5問解答すると次の5問が表示される。左側の「小テストナビゲーション」には問題番号が一覧表示されており、表示中の問題は問題番号が黒く縁取りされ、解答済みの問題は背景が灰色で、未解答の問題は白で表示される。これにより学習者(受験者)は、解答ペースを把握することができる。なお、各設問の左側にある

「問題にフラグを付ける」を押すと、画面左側の問題番号に赤いフラグがつく。一 度解答したものの再度見直したい場合にこの機能を利用する。



図7 受験生向け試験画面(一部)

さらに、受験結果を示したのが図8である。

実際の試験では、PC 教室で教師立会いのもとで実施し、試験が終了した学習者にその場で挙手をさせ、図8で解答データが教師側に正しく送信されたことを確認したうえで退出させる。

なお、学習者にとっては「小テスト」モジュールは中間・期末試験のみであるため、受験方法の説明および簡単な模擬問題をあらかじめコース上に用意し、事前指導を行ったうえで試験を実施した。

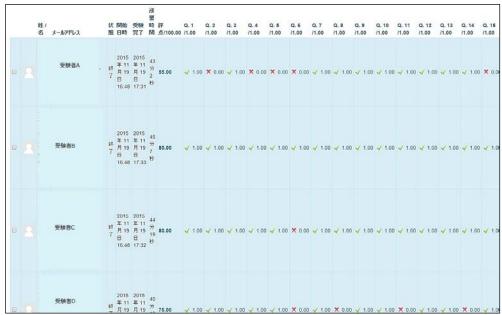


図8 受験結果画面

#### 4. おわりに

筆者(篠崎)は、2015年度後期、日本語学習者5名(うち中国3名、スリランカ2名。)を対象に、本コンテンツを使った授業(PC教室での集合学習)を試験的に実施し、以下の2点を主な課題として教材の有効性の検証を行っている。

- (1) 問題数や各種設定等、コース設計の改善。
- (2) 本コンテンツを活用したブレンディッドラーニングモデルの構築。

授業開始当初は、中国人学習者は概ね1時間前後で1回分のコンテンツを完了していたが、スリランカ人学習者は90分の授業時間中には完了できず、残りを宿題にすることが多かった。しかしながら、その差も回を重ねるごとに縮まっていき、中盤を過ぎるころにはスリランカ人学習者も授業時間内に完了することができるようになった。

また、コース設計当初は、問題の一部を動画で解説することも検討したが、実際に授業中の学習者の状況を観察すると、問題の理解は選択肢ごとのフィードバック解説で十分できており、特に動画解説の必要性は感じなかった。むしろ、「復習問題」のような反復学習を促す学習コンテンツをすべての回に追加するなどして、知識の

定着を図る必要があると思われた。

今後は、以上の検証結果をもとに改良を行い、上級レベルの日本語eラーニング 教材を完成させ、国内外に広く提供していく。これによって、高度人材の育成に寄 与するとともに、特に海外における慢性的な教員不足・教材不足を解消し、効率的 で効果的な学習支援環境を提供していきたいと考えている。

#### 付記

本研究は、なお、本発表は、平成26年度科学研究費基盤研究(C)課題番号26370622 の支援を得て行われた。

# 参考文献

- 川村よし子・北村達也(2001)「インターネットを活用した読解教材バンクの構築」 国際交流基金『世界の日本語教育』第6号 pp.241-255
- 川村よし子(2009)『チュウ太の虎の巻―日本語教育のためのインターネット活用術』 くろしお出版
- 篠﨑大司(2009)「Moodle を活用した上級日本語読解 e ラーニングコンテンツの開発と学習者評価ーブレンディッドラーニングモデルの構築に向けてー」『別府大学国語国文学』第51号、pp.1-26
- 篠﨑大司(2010a)「Moodle を活用したブレンディッドラーニング授業モデルの構築 とその有効性-上級日本語読解 BL モデルの改良-」『日本語教育方法研 究会会誌』Vol.17 No.2、pp.22-23
- 篠﨑大司(2010b)「Moodle を活用した上級日本語聴解 e ラーニングコンテンツの開発と学習者評価ーブレンディッドラーニングモデルの構築に向けてー」 『別府大学紀要』第51号、pp.21-34
- 篠﨑大司(2011a)「Moodle を活用したブレンディッドラーニング授業モデルの構築とその有効性-上級日本語文法 BL モデルの再改良と教育効果-」『日本語教育方法研究会会誌』Vol.18 No.2、pp.8-9
- 篠﨑大司(2011b)「Moodle を活用したブレンディッドラーニング授業モデルの構築 とその有効性-上級日本語文法 BL モデルの改良-」『日本語教育方法研 究会会誌』Vol.18 No.1、pp.2-3
- 篠﨑大司(2011c)「Moodle を活用したブレンディッドラーニング授業モデルの構築とその有効性-上級日本語文法を中心に-」『別府大学紀要』第52号、pp.1-10

- 篠﨑大司(2012)「新しい日本語能力試験に対応した上級日本語聴解 e ラーニングコンテンツの開発―ブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて」『日本語教育方法研究会会誌』Vol.19 No.2、pp.52-53
- 篠﨑大司(2013a)「日本語上級文法 e ラーニングコンテンツの開発―ブレンディッド ラーニングモデルの構築に向けて―」平成 24 年度漢字・日本語教育研究 助成制度報告書『漢字・日本語教育研究』第 2 号 pp.62-75
- 篠﨑大司(2013b)「ブレンディッドラーニング用 e ラーニング教材のオンラインオンリー教育への応用と有効性の検証―『上級日本語文法』を中心として―」『2013 年度春季国際学術大会招請講演会 発表論文集』pp.179-182
- 篠﨑大司(2013c)「インプット系授業に特化した融合型ブレンディッドラーニングモデルの構築と上級日本語文法 e ラーニングコンテンツの開発」『日本語教育方法研究会会誌』Vol.20 No.1、pp.12-13
- 松下達彦(2010)「日本語を読むために必要な語彙とは? -書籍とインターネットの 大規模コーパスに基づく語彙リストの作成」『2010 年度日本語教育学会春 季大会予稿集』pp.335-336
- 松下達彦(2011)「日本語を読むための語彙データベース (The Database for Reading Japanese)」 URL: http://www.geocities.jp/tatsum2003/(最終確認日:2015年10月5日)
- 松下達彦(2012)「「日本語を読むための語彙量テスト」の開発」『2012 年日本語教育 国際研究大会予稿集第一分冊』p.310
- Nation, P, & Beglar, D. (2007). A vocabulary size test. The Language Teacher. 31-7, pp.9-13.

篠崎大司(別府大学文学部 准教授) 松下達彦(東京大学大学院総合文化研究科 准教授) 川村よし子(東京国際大学言語コミュニケーション学部 教授)

日本言語文藝研究 第16號 Riben yanyu wenyi yanjiu No.16

発行年月日 2016年6月30日

発 行 所 台灣日本語言文藝研究學會

通 訊 處 台南市歸仁區長大路1號

長榮大學應用日語系

電 話 (06) 278-5123 轉 4251 · 4252

ISSN 2225-4951